

# 平成29年度 公共事業再評価 都市公園事業 佐賀城公園



県土整備部 都市計画課

# 1. 公園の種類（佐賀県が管理する“都市公園”とは）

## 都市公園設置の目的

都市公園の整備を行うことにより、安全で快適、緑豊かな都市環境の形成を推進し、豊かな県民生活の実現を図る

## 県が管理する都市公園

森林公園



佐賀城公園



吉野ヶ里歴史公園

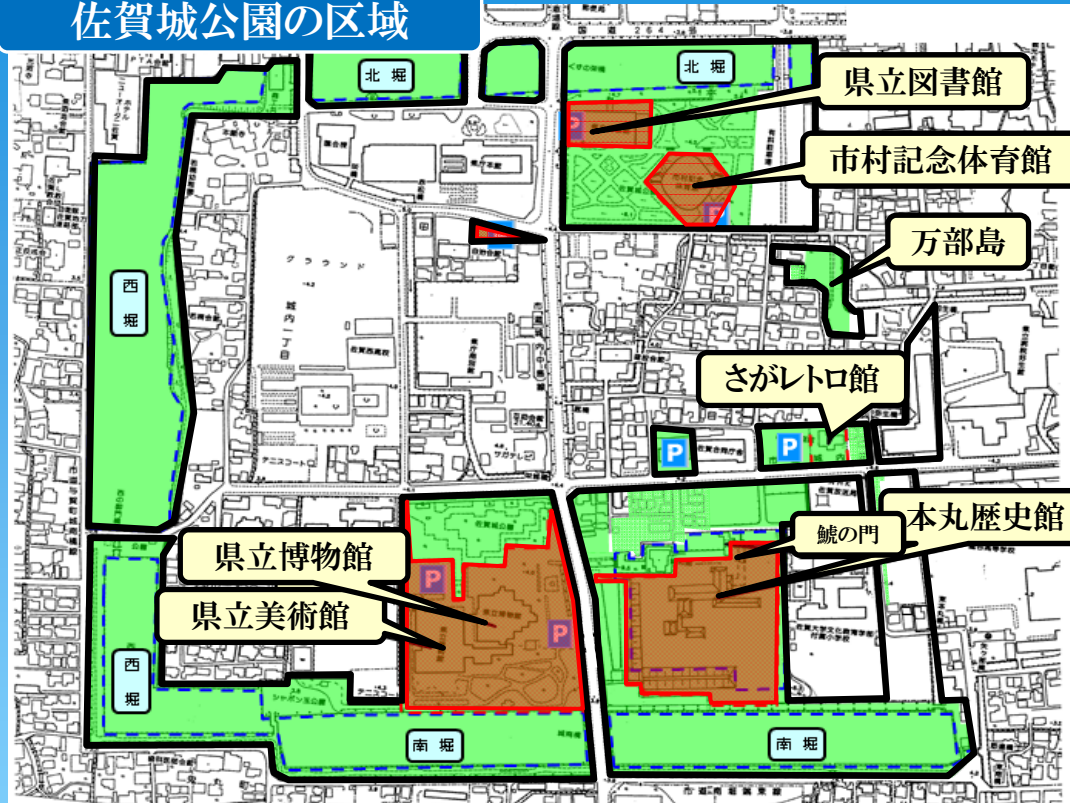


佐賀県では、この3つの都市公園の管理・運営を行っています



## 2. 佐賀県立 佐賀城公園の概要

### 佐賀城公園の区域



#### 【凡例】

- 計画決定区域(33.2ha)
- 供用開始区域(29.5ha)
- 管理委任区域(他部局管理)
- 史跡指定区域

佐賀城公園は、佐賀城跡の北濠、西濠及び南濠を主軸に約33.2haを公園化したもので全国都市公園百選のひとつ

公園内には図書館、市村記念体育館、博物館、美術館、佐賀城本丸歴史館のほか、佐賀市が管理する文化財(鯨の門等)などが点在

### 公園内の主な施設



### 3.「事業概要」及び「進捗状況」

#### 事業の概要

- 総事業費： 107億円(※建設費・維持管理費の計) 《26億円増(前回:81億円)》
- 事業期間： 昭和43年～平成34年 《7年延伸(前回:昭和43年～平成27年)》
- 全体計画： 33.2ha 《0.9ha増(前回:32.3ha)》
- 主要施設： 城濠、園路広場、植栽、遊具、便所、駐車場 等
- 関連施設： 博物館、美術館、図書館、本丸歴史館等【※他部局管理】

#### 事業の進捗状況

- 平成28年度末事業費： 80.6億円 《7億円増(H23末時点:73.6億円)》
- 平成28年度末進捗率： 75.4% 《15.5%減(H23末時点:90.9%)》  
(参考:99.5%※前回再評価時全体事業費ベース)



佐賀城公園の自然・歴史・風景・  
文化財・イベントなど、魅力  
いっぱいの作品を募集します。  
平成30年1月31日必着



### 3.「事業概要」及び「進捗状況」

現在の主な事業内容【建設費】

佐賀城下再生百年構想(将来構想図)※県HPより



鯨の門北側の空堀・広場整備・東濠復元工事を進めています



### 3.「事業概要」及び「進捗状況」

現在の主な事業内容【維持管理費】



老朽化した施設を計画的に更新し、より快適・安心な公園を目指します



### 3.「事業概要」及び「進捗状況」

#### 公園の利用状況



水鏡プロジェクト(建築士会)



佐賀さいこうフェス(ワニショップ)



佐賀さいこうフェス(音楽イベント)

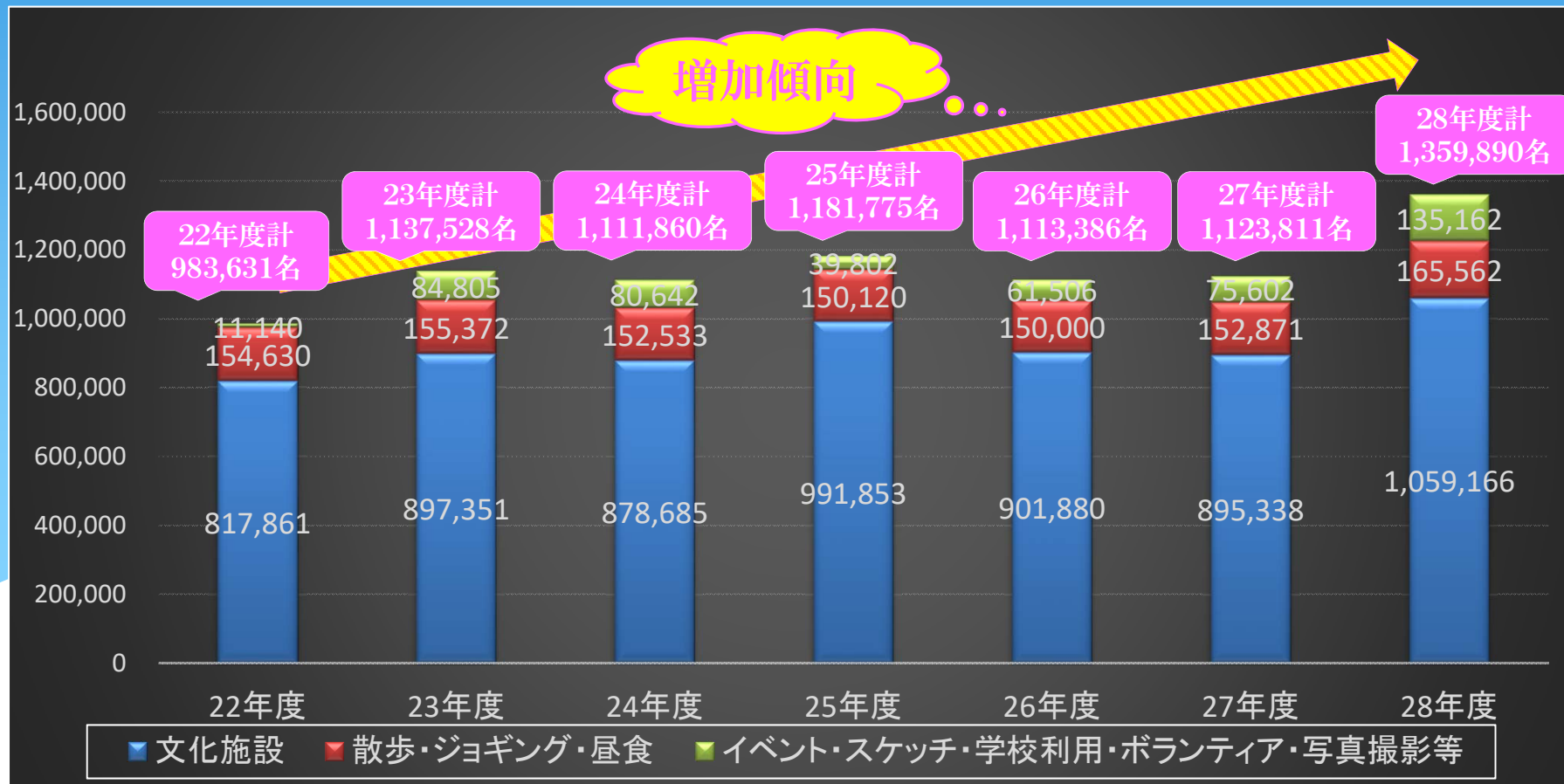


お濠めぐり舟(NPO)

### 3.「事業概要」及び「進捗状況」

#### 公園の利用状況

- 佐賀城公園への来園者数は近年、増加傾向にある
- 増加要因は、文化施設における企画展開催等による施設利用者の増、鯉の門周辺整備の進捗、公園イベント等による公園来園者数の増が推察





## 4. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

### ■ 都市計画決定の変更(平成27年2月)【計0.9 ha追加】

NHK用地、旧県立病院好生館立体駐車場跡、県職員宿舍跡等を公園区域に加え、佐賀城公園として整備することとした

都市計画決定 公園区域 (航空写真H24撮影)



追加区域の現況写真



【追加区域(計1.02ha)・・・赤色枠内】

- ・立体駐車場跡 0.56ha
- ・NHK敷地 0.33ha
- ・職員宿舍跡 0.10ha
- ・万部島会議室跡 0.03ha

【削除区域(計0.04ha)・・・青色枠内】

- ・博物館東 0.04ha

## 5. 費用対効果の要因と変化

| 分析結果       | 単位  | 今回(前回との差)               | 前回(H24年) | 前々回(H19年) |
|------------|-----|-------------------------|----------|-----------|
| 便益額(B)     | 百万円 | <u>86,223 (-81,301)</u> | 167,524  | 84,228    |
| 費用(C)      |     | <u>35,005 (+9,310)</u>  | 25,695   | 23,705    |
| 費用便益費(B/C) | -   | <u>2.46 (-4.06)</u>     | 6.52     | 3.55      |

### 【便益額(B)減額要因】 △ 810億円

#### ① 誘致圏縮小に伴う、誘致圏人口の“減”

■ 前回 20km圏内(対象人口 94万人)

■ 今回 10km圏内(対象人口 34万人)

【誘致人口約60万人減 = 約810億円減】

#### 《便益の内訳》

| 項目 | 概要 | 価値<br>(前回)                              |
|----|----|-----------------------------------------|
| 直接 | 利用 | 公園までの移動費用(料金、所要時間)<br>を利用して貨幣価値化(旅行費用法) |
|    |    | 47,989<br>(86,093)                      |
| 間接 | 環境 | 環境の維持、改善、景観の向上に役立つ価値(緑地の保存、季節感等)        |
|    |    | 16,232<br>(34,124)                      |
|    | 防災 | 防災に役立つ価値(延焼防止、避難地等)                     |
|    |    | 22,002<br>(47,307)                      |

#### 《要因》

- 最新の「公園利用動態調査(H26国土交通省)」に基づいて再設定したところ「誘致圏域(=誘致圏人口)」が縮小
- 便益算定には誘致圏人口(又は世帯数)を乗じるため減  
※上記算定には、評価対象期間変更による便益増も含む

### 【費用(C)増額要因】 +93億円

#### ① 区域追加に伴う、建設費の“増”

■ 前回 194億円 (※現在価値)

■ 今回 257億円 【約63億円増(※現在価値)】

#### 《要因》

- 公園区域の追加(NHK、旧好生館等)に伴う「用地補償」および「公園整備工事」にかかる費用の増(うち26億円)
- 現在価値再算定による費用の増 等(うち37億円)

#### ② 算定手法変更に伴う、維持管理費の“増”

■ 前回 63億円 (※現在価値)

■ 今回 93億円 【約30億円増(※現在価値)】

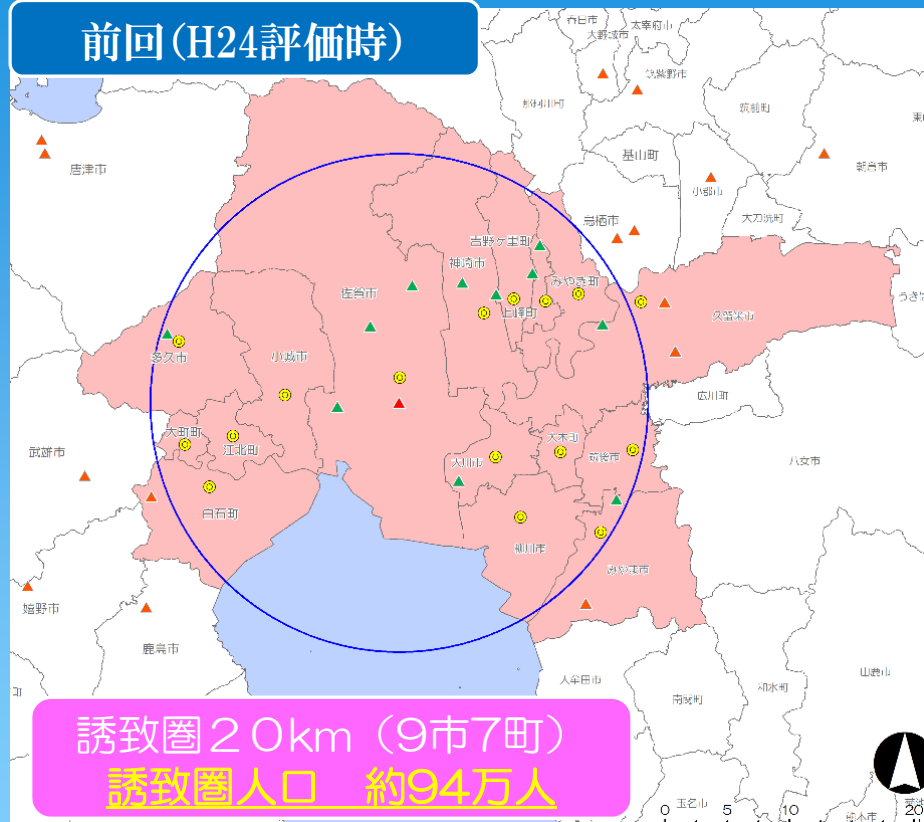
#### 《要因》

- 国交省が定める「費用対効果分析手法マニュアル」の改訂により「部分供用がある場合」の算定手法が具体的に明記
- これに基づき算定したところ、評価対象期間が「前回:1968年から2017年まで(当初供用から50年間)」から、今回「2071年度まで(全体供用から50年間)」となった
- これにより維持管理費用が計上期間の延伸による費用の増



## 【参考資料①】 誘致圏及び誘致圏人口の縮小

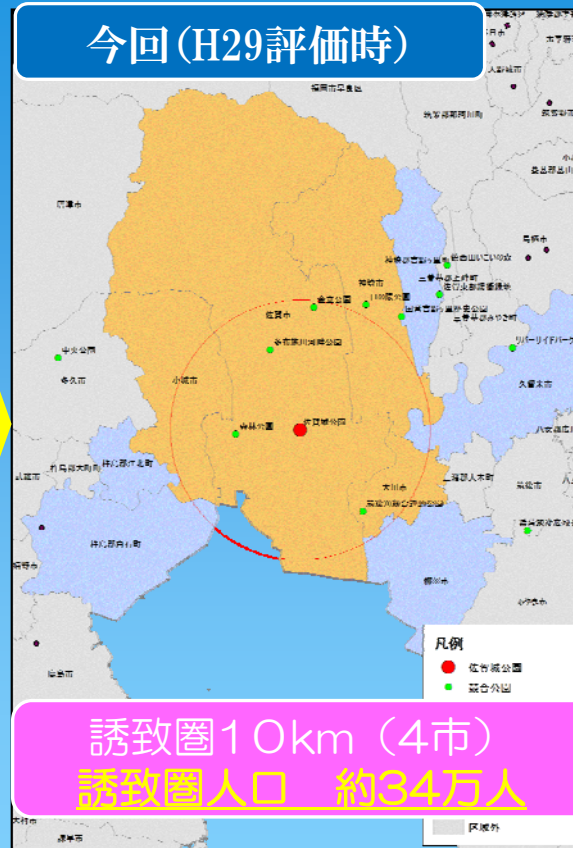
## 前回(H24評価時)



【対象市町】

佐賀市、神埼市、小城市、多久市、大川市、柳川市、  
久留米市、みやま市、筑後市(9市)  
江北町、大町町、白石町、吉野ヶ里町、上峰町、  
みやき町、大木町(7町)

今回(H29評価時)



【対象市町】

佐賀市、神埼市、小城市、大川市(4市)

## 【参考資料②】 誘致圏の縮小要因

### 【公園利用実態調査結果の更新(H13⇒H26最新データ)】

- ・「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル(国土交通省)」に掲載されている「公園種別距離別累積利用率」について、掲載値が、「平成13年都市公園利用実態調査結果」から「平成26年都市公園利用実態調査結果」に更新
- ・総合公園である、佐賀城公園誘致圏の設定にあたり、前回同様80%誘致圏を踏まえた結果、今回の公園誘致圏は10km(前回は20km)と設定した

前回  
(H24評価時)

表 2-5 公園種別距離別累積利用率

|      | 5km 未満 | 5～10km | 10～20km | 20～50km | 50～100km | 100km以上 |
|------|--------|--------|---------|---------|----------|---------|
| 総合公園 | 55.3%  | 73.6%  | 85.1%   | 93.0%   | 95.4%    | 100.0%  |
| 運動公園 | 57.7%  | 75.0%  | 87.9%   | 95.8%   | 98.5%    | 100.0%  |
| 広域公園 | 33.1%  | 51.4%  | 72.0%   | 86.6%   | 93.0%    | 100.0%  |
| 国営公園 | 7.9%   | 19.5%  | 42.4%   | 72.6%   | 91.0%    | 100.0%  |

出所：国土交通省：平成13年度都市公園利用実態調査

誘致圏  
20km

今回  
(H29評価時)

表 2-5 公園種別距離別累積利用率

|      | 5km 未満 | 5～10km | 10～20km | 20～50km | 50～100km | 100km以上 |
|------|--------|--------|---------|---------|----------|---------|
| 総合公園 | 66.0%  | 83.0%  | 90.8%   | 95.2%   | 96.8%    | 100.0%  |
| 運動公園 | 53.0%  | 75.3%  | 89.3%   | 96.4%   | 98.4%    | 100.0%  |
| 広域公園 | 39.5%  | 53.6%  | 65.6%   | 82.3%   | 89.8%    | 100.0%  |
| 国営公園 | 7.4%   | 15.7%  | 32.6%   | 58.5%   | 77.4%    | 100.0%  |

出所：国土交通省：平成26年度都市公園利用実態調査

誘致圏  
10km



## 6. コスト縮減や代替案等の可能性

### ◆ コスト縮減策 … 下記により事例紹介

■ 工事で発生する残土を盛土材等として流用することで建設費の縮減  
(事例) 東濠掘削残土を改良し、園路盛土材として利用

■ 樹木剪定などの発生材をチップ化し活用することで維持管理費の縮減  
(事例) 発生材のチップによる、雑草抑制、霜害防止、土砂流出防止 等



### ◆ 代替案 … 該当なし

## 7. 対応方針(事業課案)

- ・佐賀城本丸歴史館をはじめ、佐賀城公園には、観光・交流の拠点として多くの来園者があり、近年では海外からも多く来園
- ・「水」と「緑」、「歴史」を活かしたまちづくりを目指し、孫の世代(100年後)まで受け継げるような、品格ある佐賀城下を再生することを目的とした「佐賀城下再生百年構想(平成19年3月)」を官民一体となって策定
- ・佐賀城公園は単なる公園としてだけでなく、“まちづくり”を形成する要素(公園と住宅地や公共施設が調和)となるものである。
- ・佐賀城址を更に体感してもらうため、残る鯨の門周辺及び東濠復元整備を一体的に進める必要がある。

以上から、事業継続が必要である